



2023年5月15日

# 決算説明資料

2023年3月期

株式会社ベガコーポレーション | 証券コード:3542



VEGA corporation

**1**

2023年3月期 決算概要

**2**

LOWYA事業の報告

**3**

DOKODEMO事業の報告

**4**

2024年3月期 業績予想

**5**

Appendix

# 1

## 2023年3月期 決算概要

全社業績概況

LOWYA事業が復調し、4QもYoY 103.2%の売上高を確保。  
 通期営業利益は、当初想定を上回り、1月31日公表業績予想レンジ内で着地。

	2023年3月期	YoY
GMV (LOWYA)	<b>17,256</b> 百万円	<b>98.0%</b>
GMV (DOKODEMO)	<b>4,898</b> 百万円	<b>136.2%</b>
売上高	<b>16,973</b> 百万円	<b>100.8%</b>
営業利益	<b>338</b> 百万円	<b>56.8%</b>

LOWYA事業

概況

- 4Qについては販売が引き続き好調に推移。通期では、旗艦店について利益コントロールに注力し、事業合計売上高はYoY 99.6%。
- 当期は、原価率上昇への対処として、販管費の大幅な削減を実行。
- リアル店舗展開として、2Qより卸売りを開始し、2023年4月に実店舗を開業。

DOKODEMO事業

概況

- 4Qは、市場環境の変化により、GMVがYoY 83.5%と縮小。コストコントロールで事業収支の赤字を抑制。
- 通期では、予定通り先行投資を抑えつつ成長基調を継続。事業赤字は大幅縮小。

LOWYA事業が復調し、4QもYoY 103.2%の売上高を確保。

通期営業利益は、当初想定を上回り、1月31日公表業績予想レンジ内で着地。

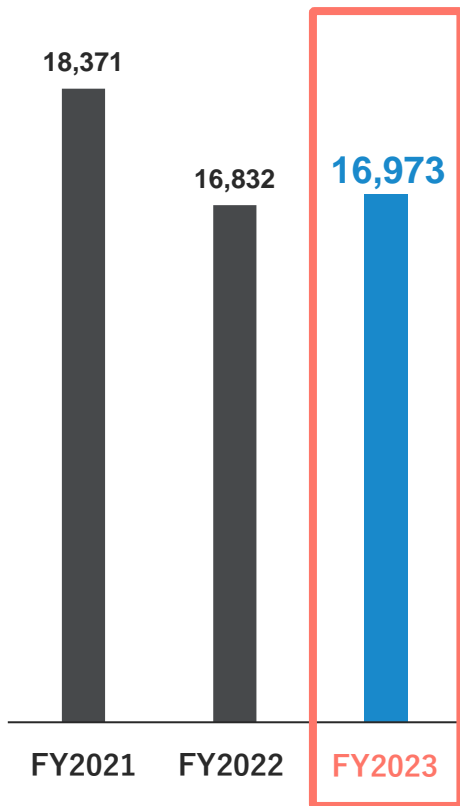
(単位：百万円)

	2022年3月期		2023年3月期 (当期)		前期比
	実績	売上比	実績	売上比	
売上高	16,832	100.0%	16,973	100.0%	100.8% (+140)
売上総利益	9,371	55.7%	8,471	49.9%	90.4% (△900)
販管費	8,775	52.1%	8,133	47.9%	92.7% (△642)
営業利益	596	3.5%	338	2.0%	56.8% (△257)
経常利益	621	3.7%	364	2.1%	58.7% (△256)
当期純利益	382	2.3%	120	0.7%	31.5% (△262)

LOWYA事業復調により、2Q以降、順調に全社合計売上高が伸長。

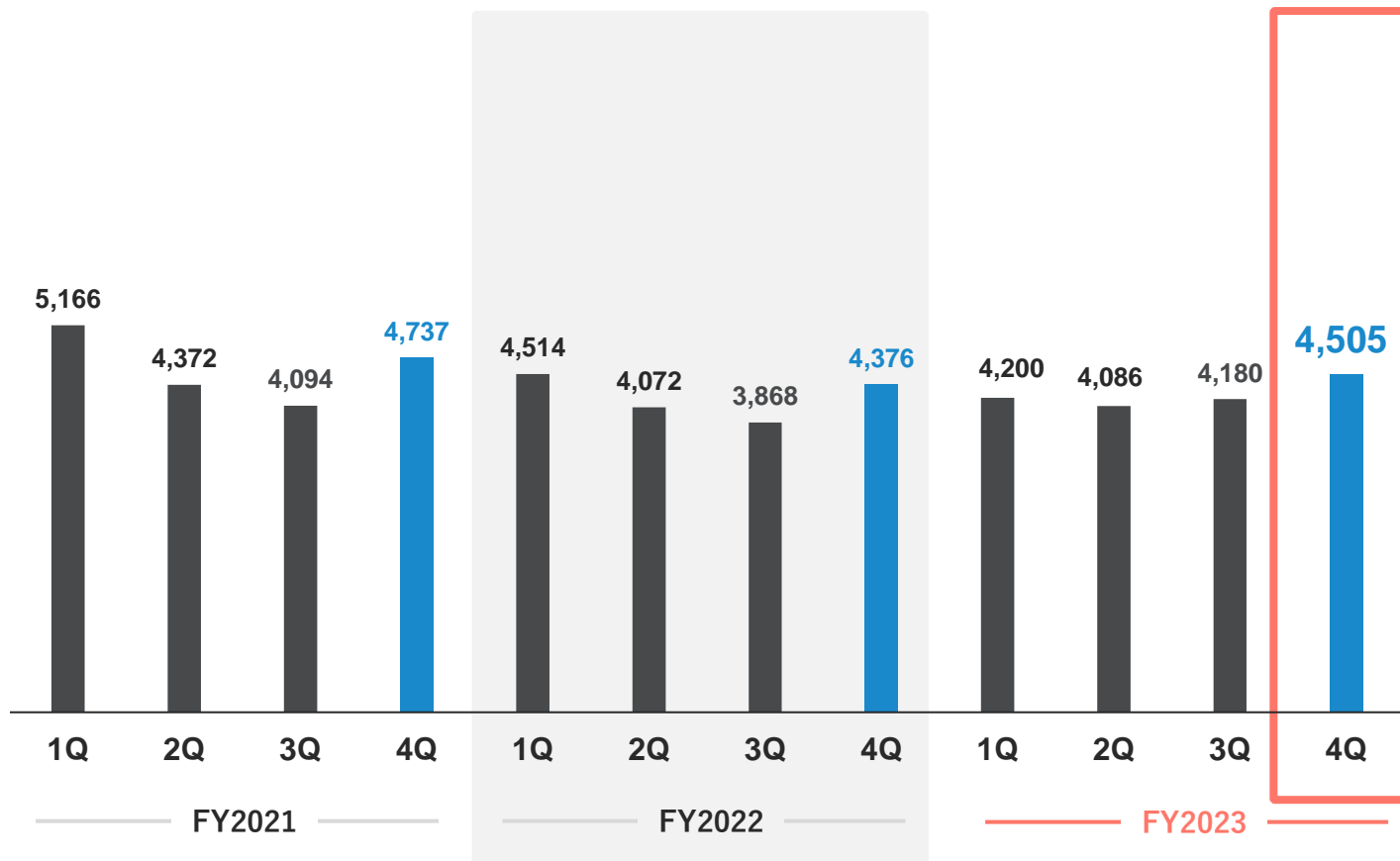
通期

(単位：百万円)



四半期

(単位：百万円)



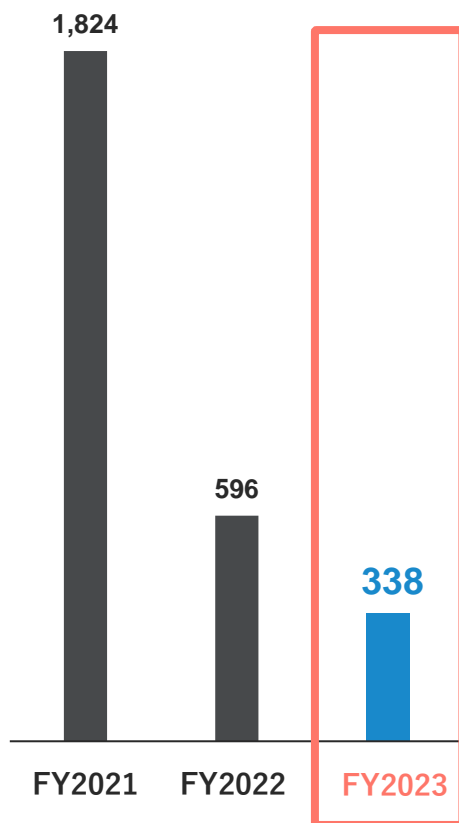
※2022年3月期より新収益認識基準適用となったため、2021年3月期以前も新収益認識基準を遡及適用した場合の売上高に変更しております。

※2022年3月期1Q実績は、比較のため、現行の会計処理と合わせた数値となっております。

コスト削減により、利益は当初想定を上回るペースで着地。ただし、LOWYA事業において円安進行による原価率上昇が顕在化しており、翌上期の原価率コントロールが課題。

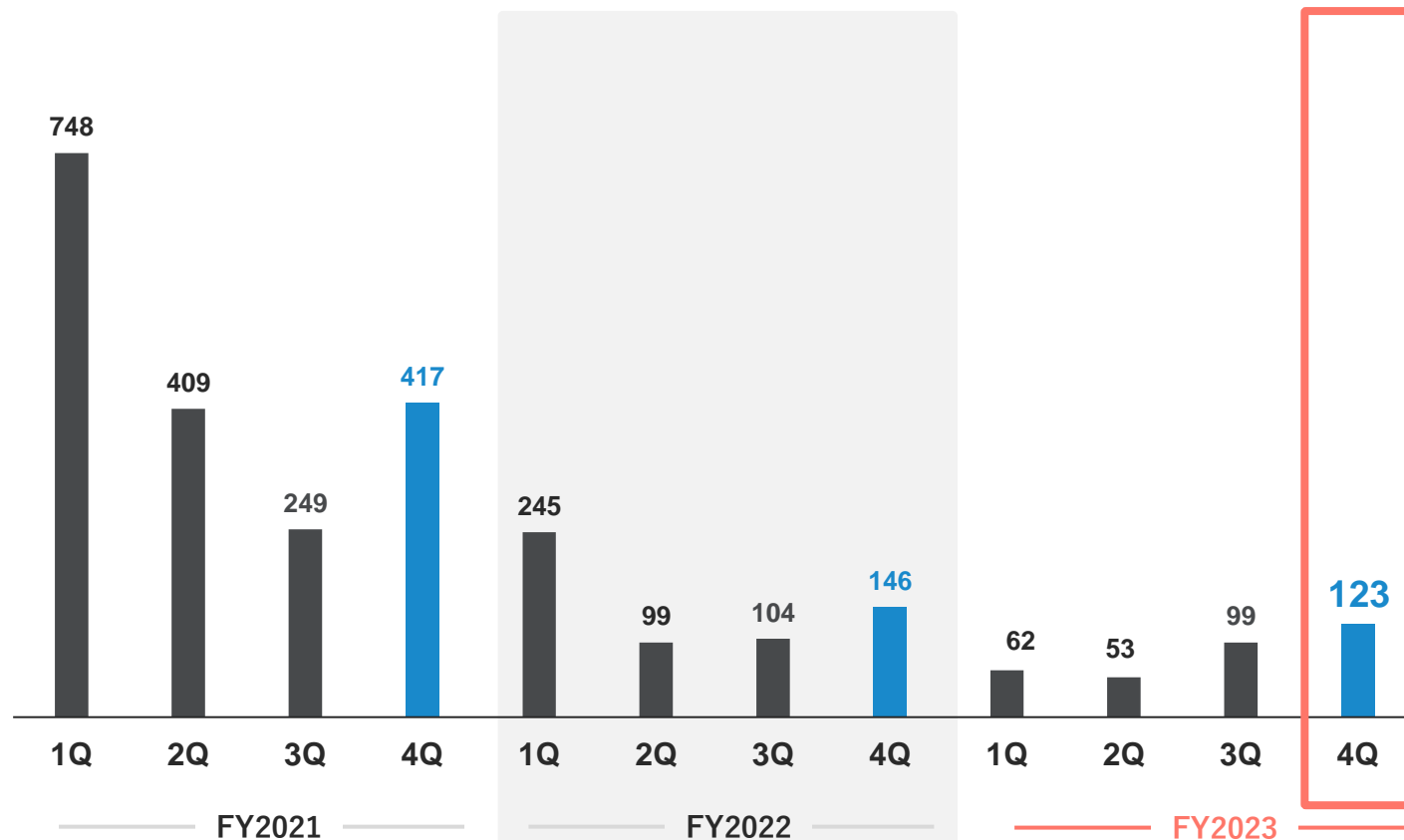
通期

(単位：百万円)



四半期

(単位：百万円)



※2022年3月期より新収益認識基準適用となったため、2021年3月期以前も新収益認識基準を遡及適用した場合の売上高に変更しております。

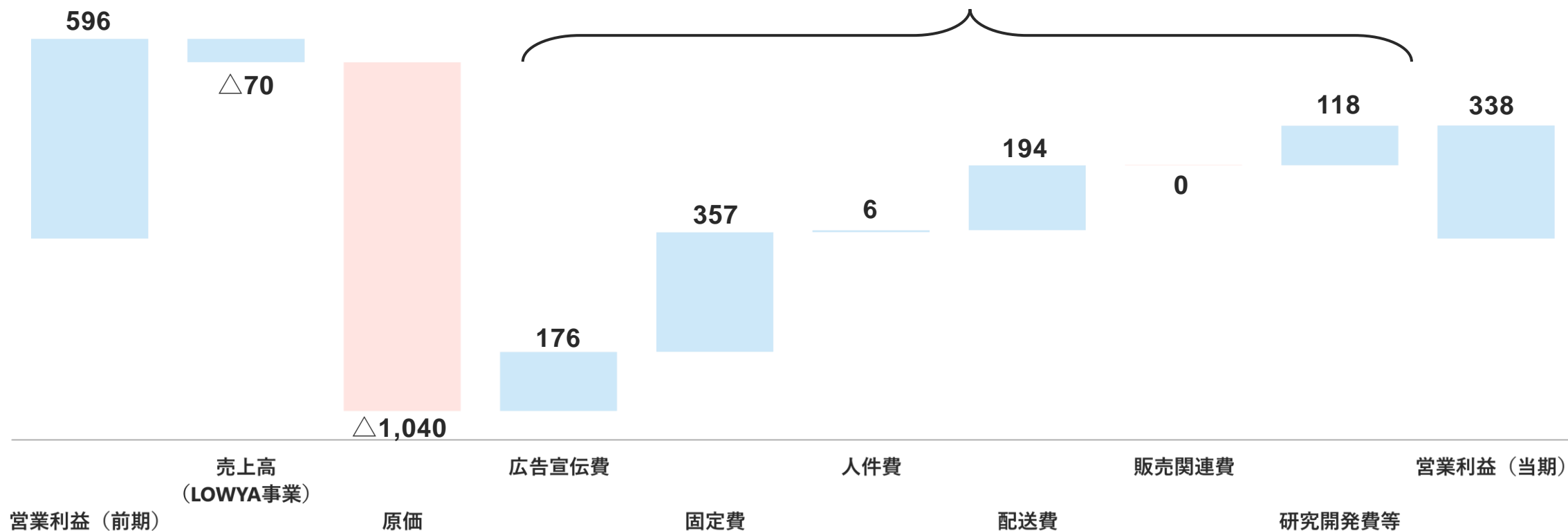
※2022年3月期1Q実績は、比較のため、現行の会計処理と合わせた数値となっております。

LOWYA事業で物流拠点の集約、配送・広告宣伝の効率化、東京支社の移転等を実行。  
 前期比で5.0pt（853百万円）の販管費削減・新規事業改善を実行し、原価率上昇への耐性を強化。

営業利益増減要因（前期比）

（単位：百万円）

販管費削減・新規事業改善 計853百万円



※算定基準となる売上高はDOKODEMO事業及び研究開発費に係わる収益を除いた金額となる為、損益計算書上の販管費とは一致いたしません。



在庫の圧縮に伴い、現預金が大幅に増加。短期借入金を全額返済し、無借金に。

(単位：百万円)

	前事業年度 (2022年3月末)	当事業年度 (2023年3月末)		前事業年度 (2022年3月末)	当事業年度 (2023年3月末)
流動資産	6,676	5,956	流動負債	2,701	1,796
うち、現預金	1,070	1,892	うち、借入債務	1,000	—
うち、売掛金	1,870	1,814	固定負債	50	51
うち、商品	2,990	1,819	<b>負債合計</b>	<b>2,751</b>	<b>1,847</b>
固定資産	1,344	1,195	株主資本	5,254	5,308
うち、有形・無形固定資産	500	526	<b>純資産合計</b>	<b>5,269</b>	<b>5,304</b>
<b>資産合計</b>	<b>8,020</b>	<b>7,151</b>	<b>負債純資産合計</b>	<b>8,020</b>	<b>7,151</b>

# 2

## LOWYA事業の報告

4Qは、3Qに引き続き売上高が順調に回復し、LOWYA事業売上高がYoY 103.2%。

当期は、旗艦店の利益コントロールに注力し、通期で旗艦店売上高YoY 91.2%。

旗艦店の会員数が130万人を突破し、引き続き順調に増加。リピーターによる売上(GMV)比率も着実に上昇。

(単位：百万円)

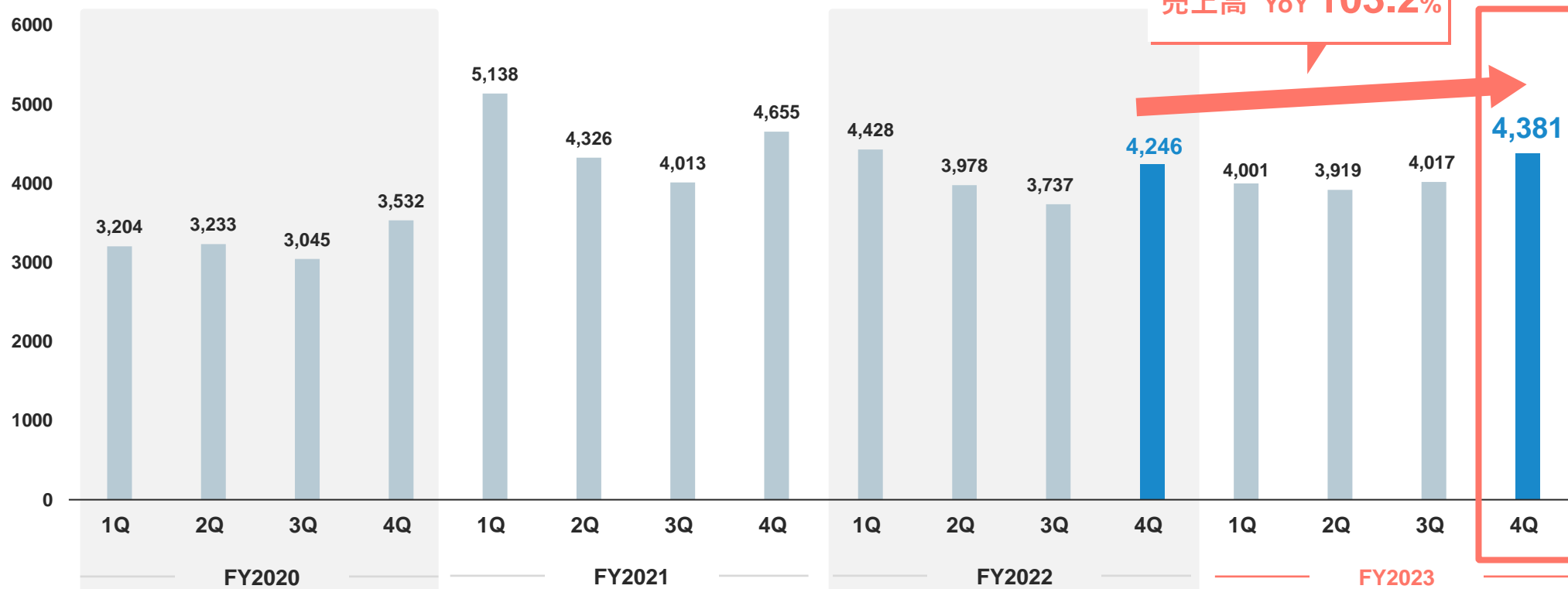
対象	項目	集計方法	2022年3月期	2023年3月期（当期）	前期比
事業計	LOWYA事業 売上高（百万円）※1	通期	16,390	16,320	99.6% (△70)
旗艦店	旗艦店 売上高（百万円）※1	通期	8,455	7,708	91.2% (△747)
	会員数（千人）	期末時点	1,127	1,390	123.3% (+263)
	リピーター比率（GMV基準）（%）	LTM	22.9	26.1	114.3% (+3.3)
	会員：平均バスケット単価（円）	LTM	22,946	22,439	97.8% (△507)
	ゲスト：平均バスケット単価（円）	LTM	20,091	18,822	93.7% (△1,269)

※1. 2023年3月期(通期)決算説明資料より、収益認識基準適用から期間経過したため、GMV(流通総額)に代えて売上高を記載しております。

第4四半期も好調を維持し、事業合計売上高が順調に伸長。

(単位：百万円)

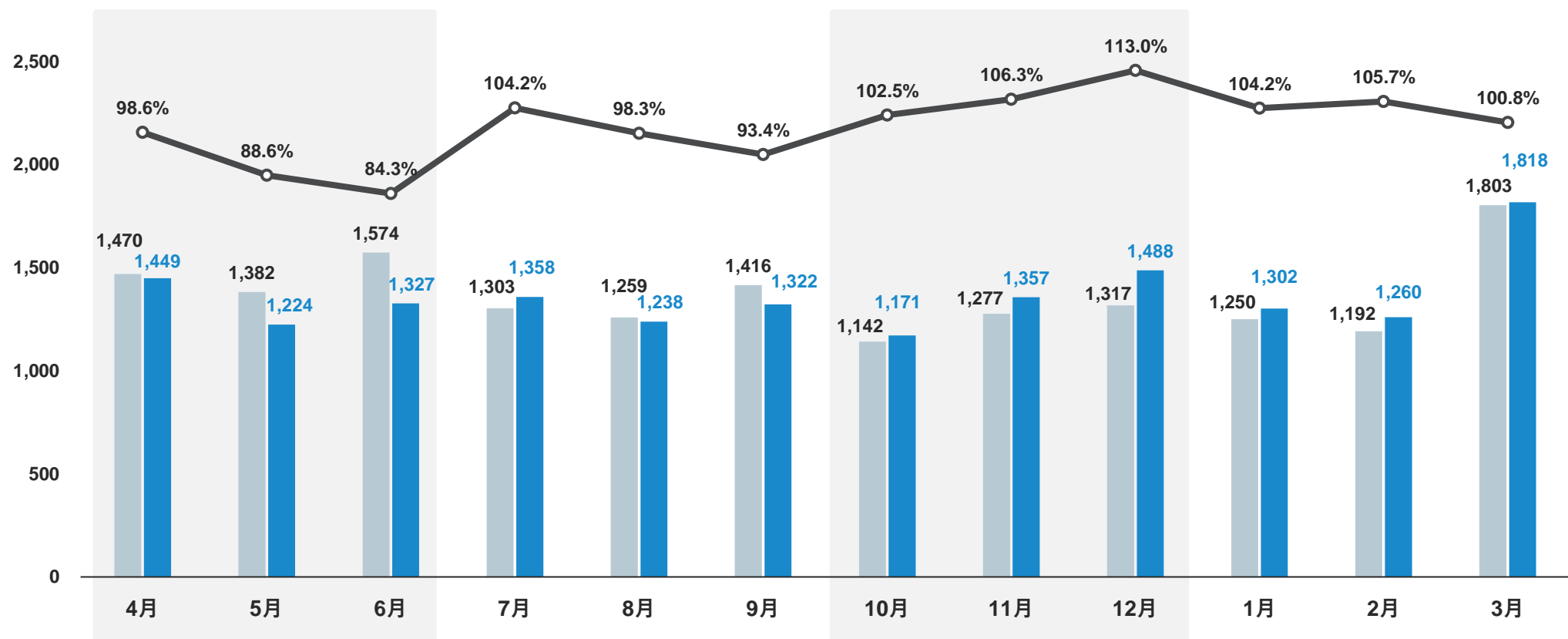
■ 売上高



LOWYA事業全体では、2022年10月から前年同月比100%超え、好調が継続。

(単位：百万円)

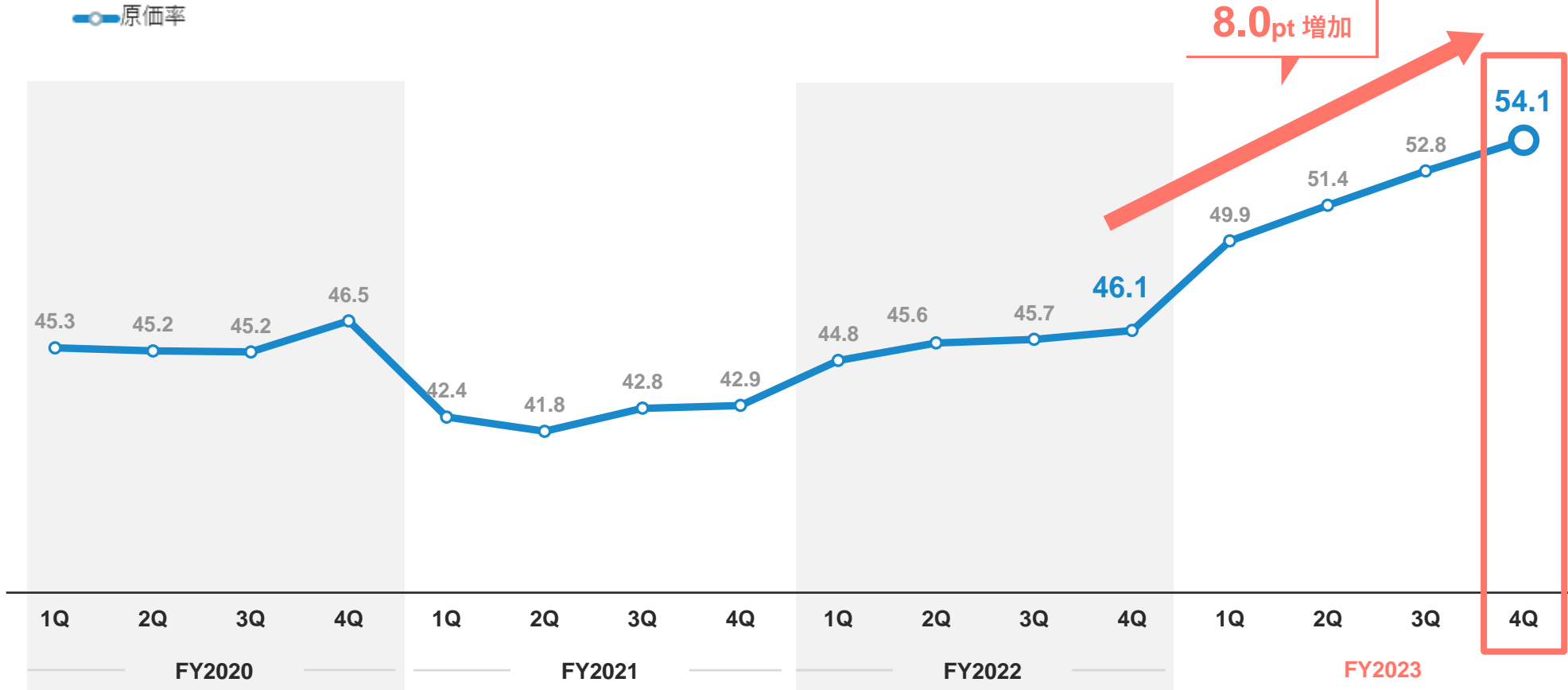
■ 2022年3月期 ■ 2023年3月期 ○ YoY



海上コンテナ輸送運賃は2Qをピークに低下傾向を見せ始めたが、大幅な円安進行により原価率が上昇。  
 翌上期の原価率コントロールが課題。

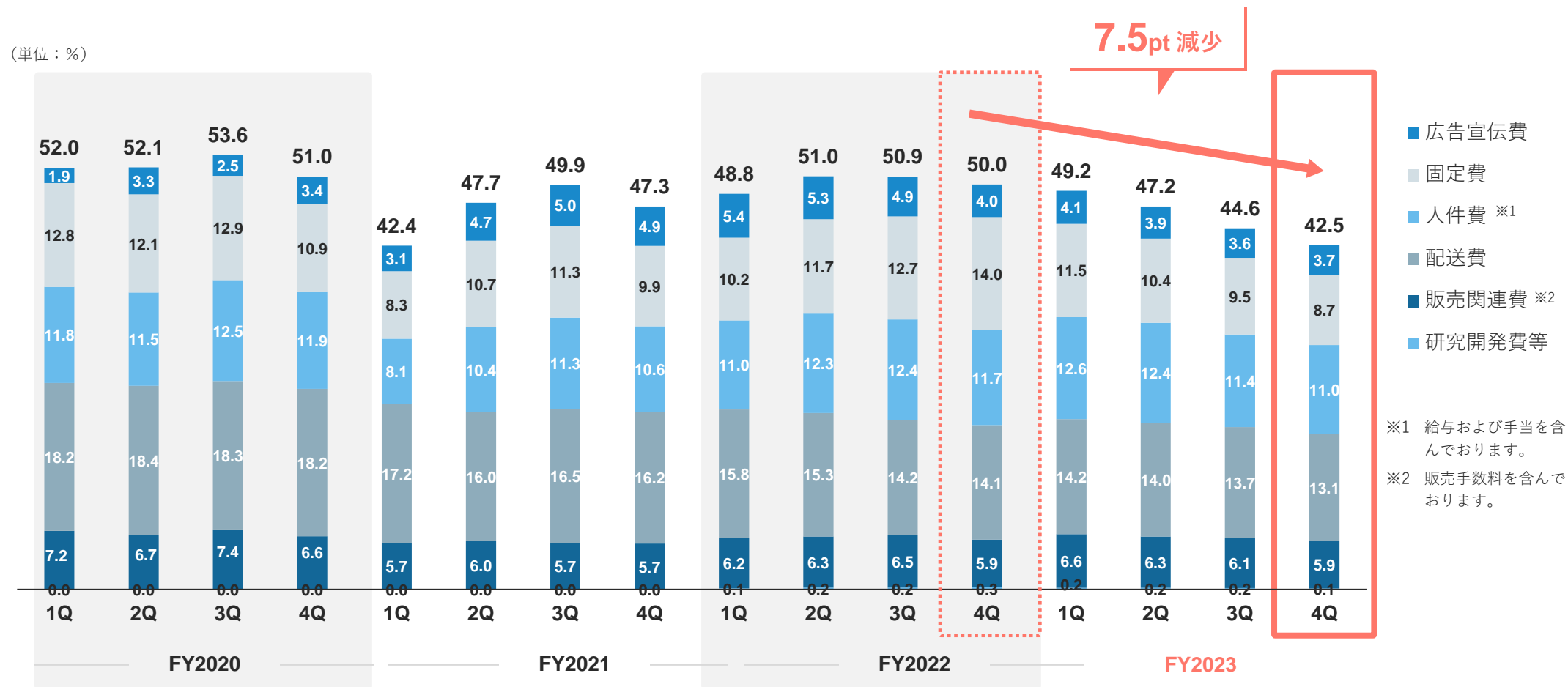
※原価率 2022年3月期 45.5% 2023年3月期 52.1%

(単位：%)



※2022年3月期より新収益認識基準適用となったため、2021年3月期以前も新収益認識基準を遡及適用した場合の売上高に変更しております。

物流拠点の集約、配送・広告宣伝の効率化、東京支社の移転等により、4Q（3ヶ月）で前期比7.5pt（258百万円）の販管費削減効果を生じ、原価率上昇への耐性を強化。

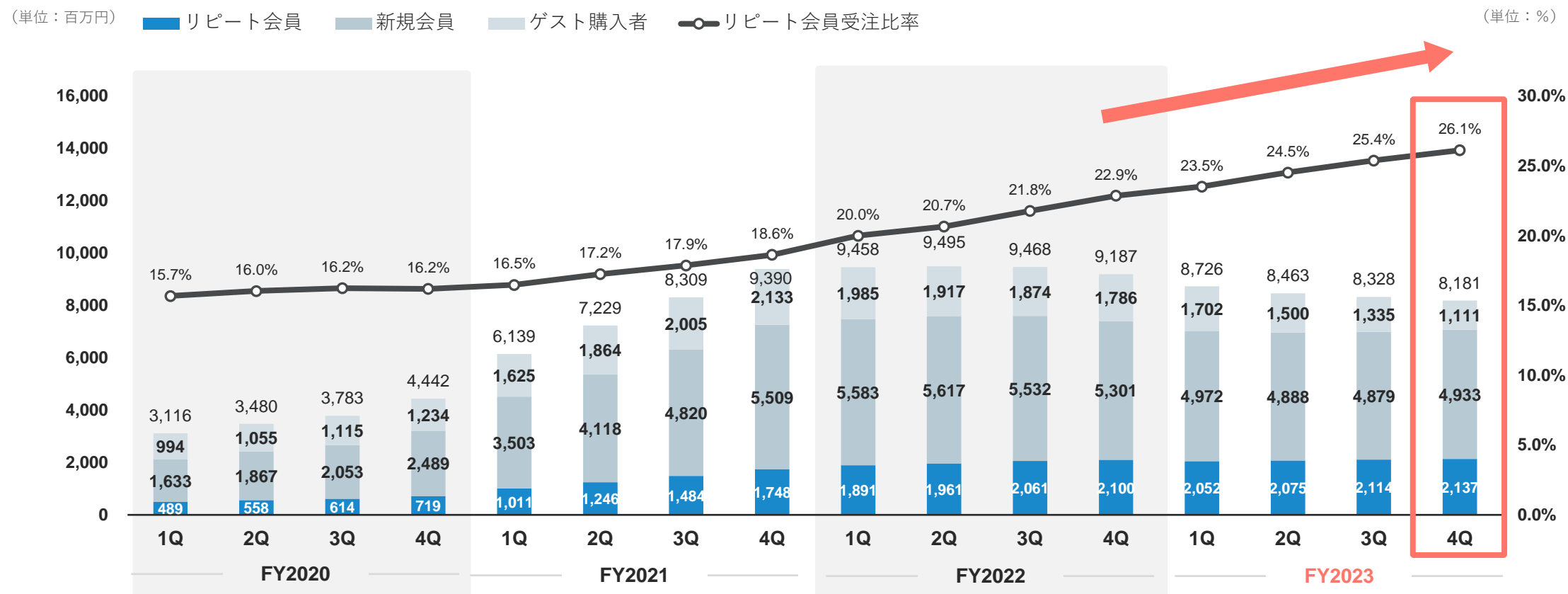


※2022年3月期より新収益認識基準適用のため、2021年3月期以前も新収益認識基準を遡及適用した場合の売上高に変更しております。

なお、算定基準となる売上高はDOKODEMO事業及び研究開発費に係わる収益を除いた金額となる為、損益計算書上の販管費比率とは一致いたしません。

ゲスト購入者の会員化および、新規会員のリピート会員化が進み、リピート会員層の12ヶ月GMV\*は、引き続き増加傾向にある。

会員属性別のGMV（LTM\*）





内製化している公式アプリやSNS運用が、集客の要として機能。TikTokがフォロワー10万人を突破。

世界観を広範なユーザーに届けるエンゲージメント・チャンネルの規模（2023年3月末現在）



スマホアプリ

89万ダウンロード（累計）



Instagram

84万フォロワー



TikTok

10万フォロワー



YouTube

2万チャンネル登録者

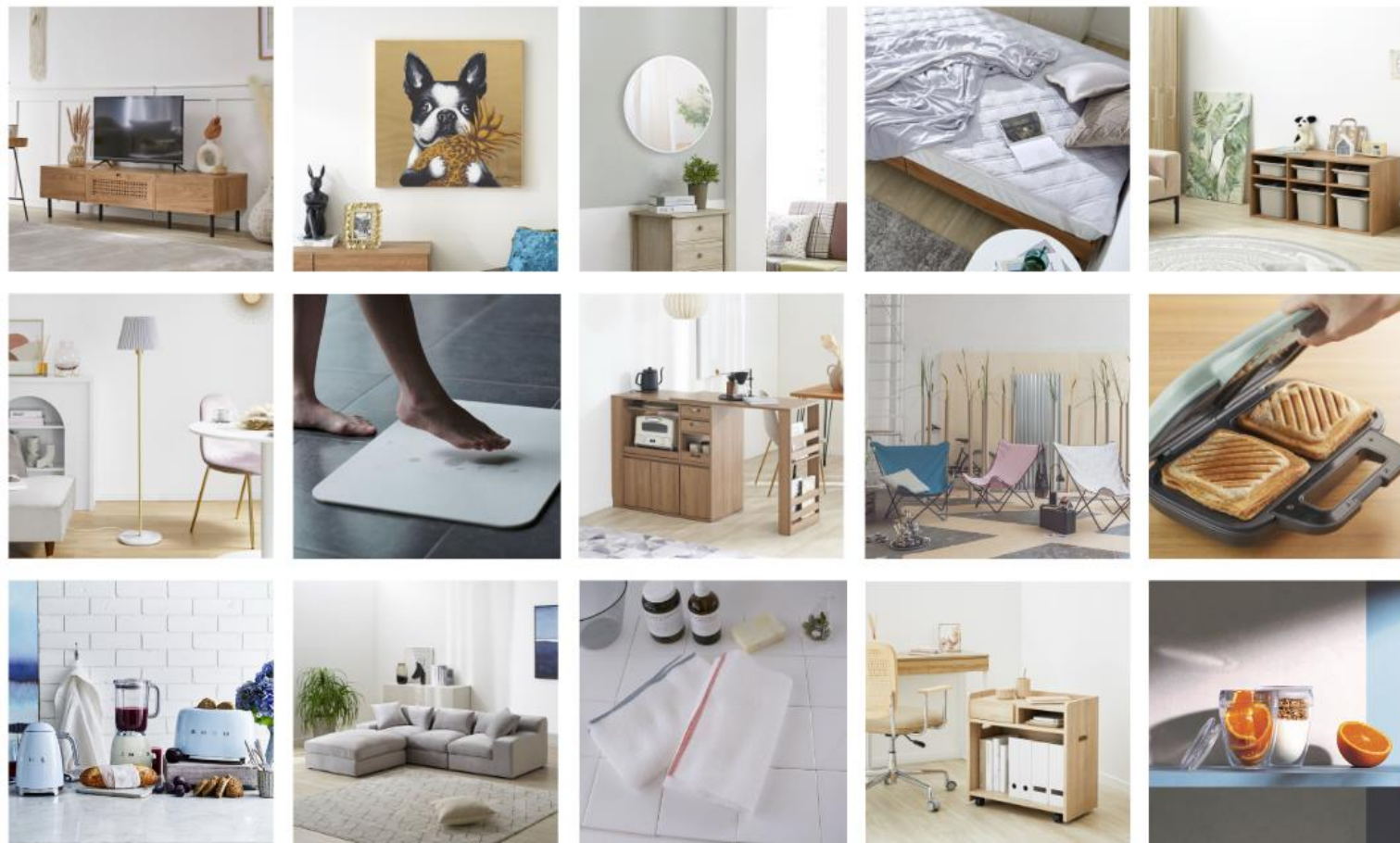
#### LOWYAの公式アプリ



#### LOWYAの公式SNS



デザイン性・トレンド性にこだわった自社PB商品を中心に投下。他社ブランドで商品ジャンルを継続拡充



—— 主な他社ブランド ——

品揃え強化



**soil**  
ソイル



**Roomhome**  
ルームアンドホーム



**Toffy**  
トフィー



**CRASH GATE**  
クラッシュゲート



2022年9月より新たに卸売を開始し、2023年4月より直営の実店舗を開業。  
今後、OMO型D2Cへの転換を図る。

### 直営の実店舗を開業（2023年4月）

- 2023年4月、創業以来初となる直営の実店舗を開業
- その他地域での実店舗の展開についても、継続検討していく



※OMO（Online Merges with Offline）：オンラインとオフラインの融合

### 創業以来初となる卸売販売を開始

- 2022年9月よりイオンリテール株式会社向けの卸売を開始
- イオンスタイル幕張新都心（2022年9月～）
- イオンスタイル北戸田（同10月～）にて2店目の売り場を開設
- 2024年3月期：イオン茅ヶ崎中央店（2023年4月）開設



廃棄物削減施策の一環として、新商品の外装ビニール袋に100%リサイクル素材を採用  
 地域貢献活動として、2022年11月と2023年2月に福岡県内の福祉施設へ家具やランドセルを寄贈



2023年3月  
 新商品「サステナクール」において、  
 外装ビニール袋に100%リサイクル素  
 材を採用。



2022年11月・2023年2月  
 福岡県社会福祉協議会と協働し、福岡  
 県内の福祉施設へ当社商品である家具  
 やランドセルを寄贈。

# 3

## DOKODEMO事業の報告

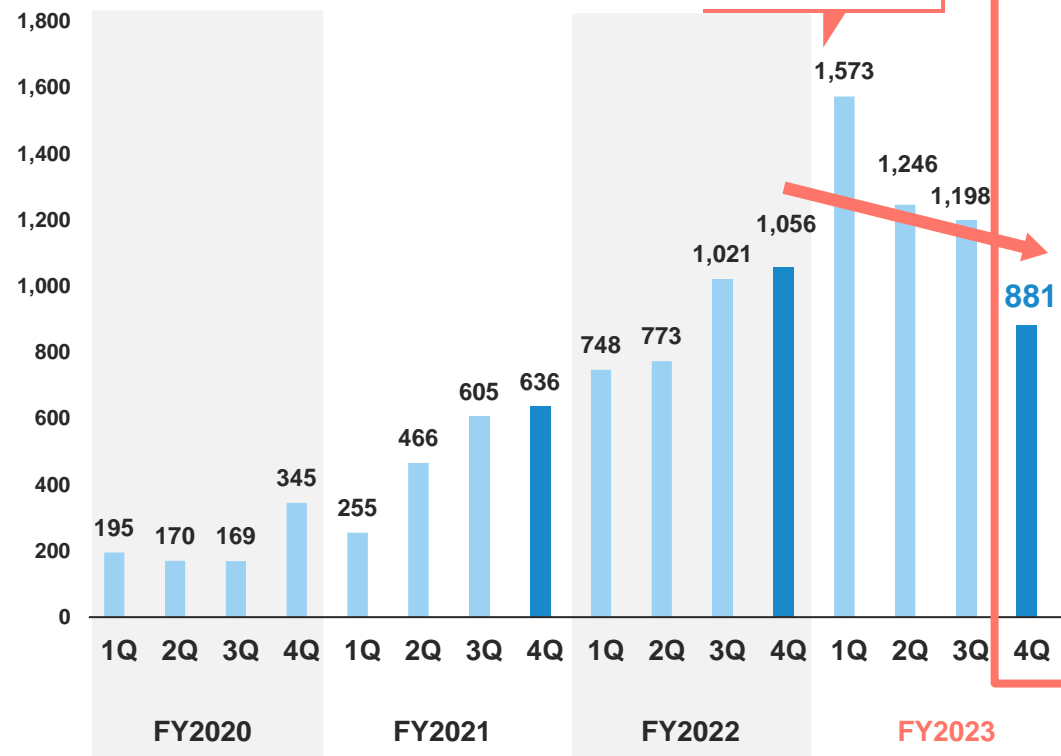
会員数やアプリダウンロード数が順調に推移。2023年2月、会員数が100万人を突破。  
一人あたり購入金額が増加し、GMVが引き続き高い成長率で伸長。

項目	2022年3月期	2023年3月期 (当期)	前期比
GMV (百万円)	<b>3,597</b>	<b>4,898</b>	<b>136.2%</b> (+1,301)
売上高 (百万円)	<b>442</b>	<b>653</b>	<b>147.8%</b> (+211)
会員数 (千人)	<b>878</b>	<b>1,009</b>	<b>115.0%</b> (+131)
APP DL数 (千)	<b>1,342</b>	<b>1,457</b>	<b>108.6%</b> (+115)
一人あたり購入金額 (円)	<b>12,576</b>	<b>13,310</b>	<b>105.8%</b> (+734)
取扱い商品数 (千)	<b>44</b>	<b>51</b>	<b>116.4%</b> (+7)
ブランド数	<b>1,123</b>	<b>1,236</b>	<b>110.1%</b> (+113)
配送実績 (過去累積) ※国と地域の配送実績数	<b>109</b>	<b>114</b>	<b>104.6%</b> (+5)

4Qは、市場環境の変化により、GMV（流通総額）は前年同期比で83.5%に留まった。通期では、予定通り先行投資を抑えつつ、成長基調を継続。事業赤字は縮小。リピーターによる流通が84.9%と上昇。

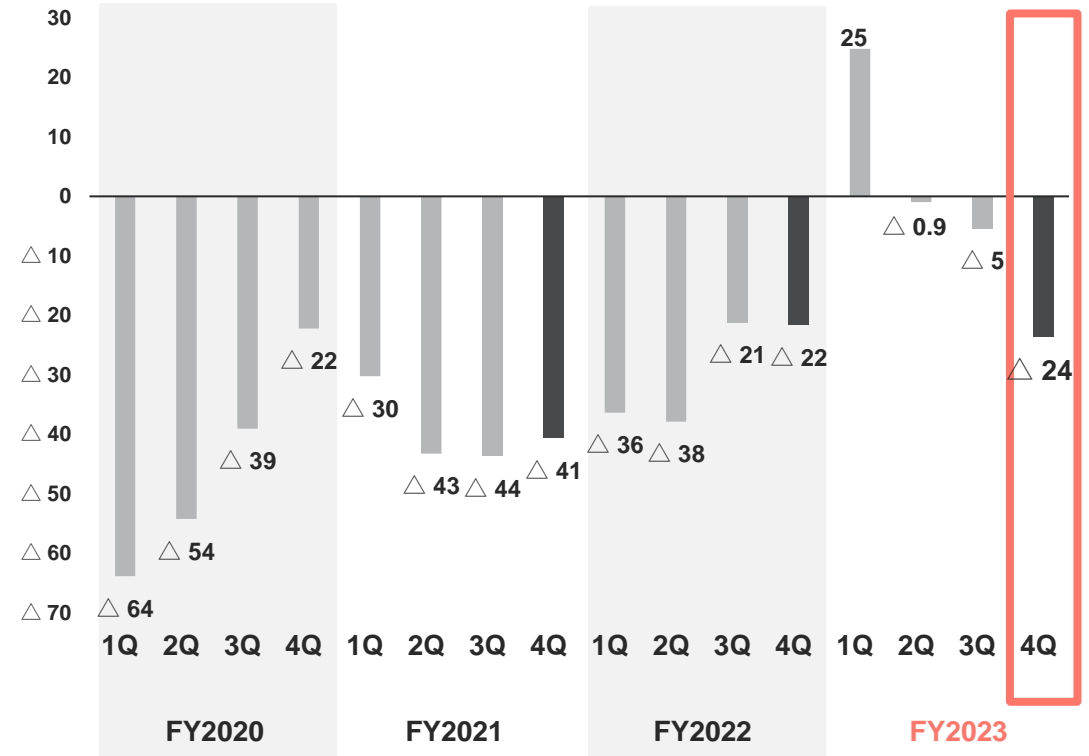
GMV

(単位：百万円)



事業収支

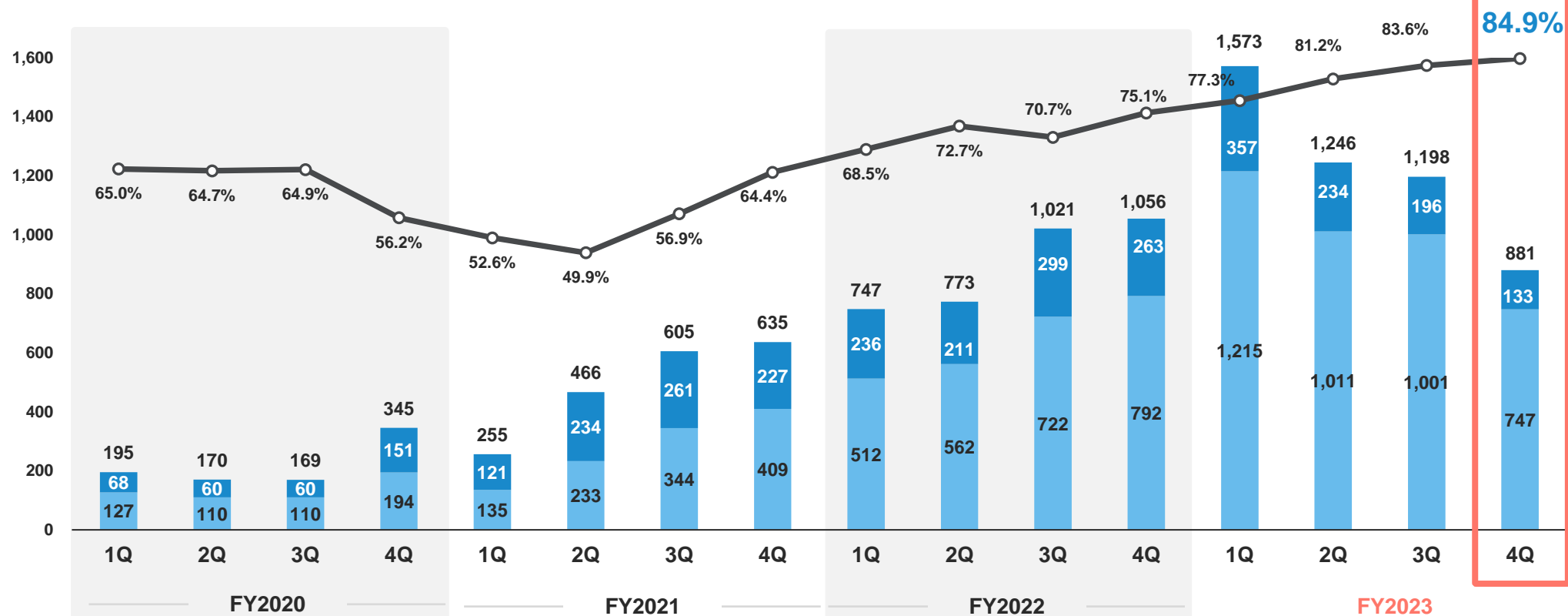
(単位：百万円)



リピーターによる流通が **84.9%** と上昇

(単位：百万円)

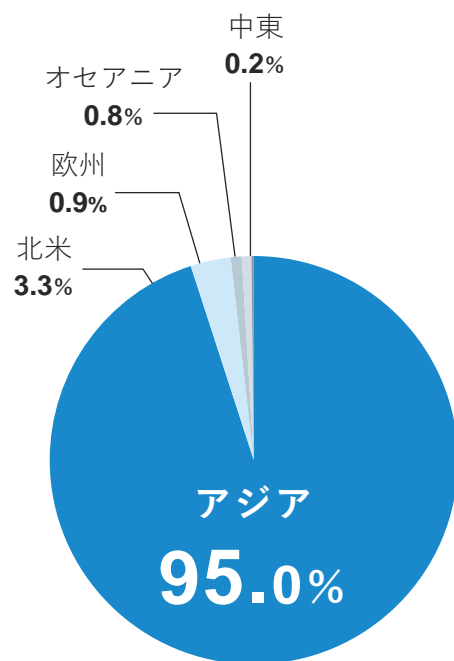
■ リピーターGMV ■ 新規顧客GMV ○ リピーター比率



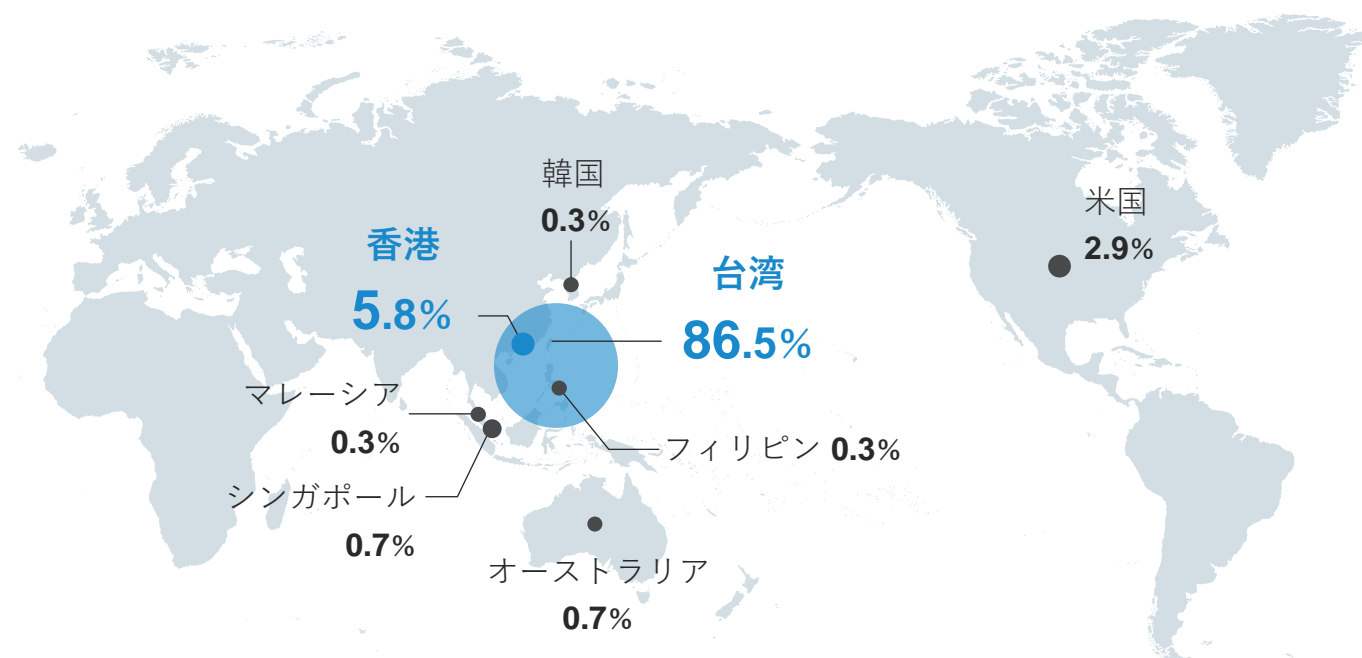


台湾を中心にアジア向けの配送がGMVの9割超を占めている

地域別



国別



# 4

2024年3月期 業績予想

## 2024年3月期業績見通し

LOWYA事業については、2023年3月期下期からの好調を維持し、売上高を伸長させる。  
為替は下期にかけて円高傾向を想定し、通期原価率52.5%を見込む。  
DOKODEMO事業は、引き続き、規律ある先行投資での運営の見込み。

	2023年3月期 実績※	2024年3月期 業績見通し	増減比
売上高 (百万円)	16,973	18,000	+ 6.0%
営業利益 (百万円)	338	600	+ 77.4%
経常利益 (百万円)	364	630	+ 72.8%
当期純利益 (百万円)	120	378	+ 213.8%
1株当たり当期純利益 (円)	11.49	35.50	—



**VEGA** corporation

IRに関するお問い合わせ

<https://www.vega-c.com/contact/ir/>

当資料に記載されている意見や予測は、当資料作成時点における当社の判断に基づき作成しております。

これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招く不確実性を含んでおります。

それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。

今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は本資料に含まれる情報の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。